



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「イルカはいるか?!新潟に」

日頃から、きょろきょろしているせい色々な物（者）にしかもか出くわします。過日は仕事場の外壁に、目玉のような文様のあるオレンジ色の大きな蝶と遭遇してたまげました。なんと南方系の蝶で、新潟どころか本州にいるはずのない種でした。「ほんとかね?」と言う方、ほんとです。私と違って慎重な母も目撃したから事実です。

その後、列車で穏やかな日本海側をみていると、これまたびっくり仰天たまげましたて、柏崎沖に、列車と並行して北上する謎の生物体発見!波から突き出た三角の黒いヒレ、その様子から見るとイルカかクジラの類です!日本海を跳ぶように進む大小複数頭、時折ジャンプしているかのように海面から黒い光沢ある胴体らしきものと尾ヒレが見えかくれ!うわっ!これはすごい!大変だ!と大興奮。こんな貴重な光景一人占めしてはもったいない!確認のため周りの見知らぬ人を起こすのも気が引けるし、乗務員を呼ぶのも大人げないので窓にへばりつくように、しばしこの光景を堪能いたしました。

早速あちこちに報告、吹聴したところ、「見間違っただこてね」「なに、ねぼけてたんだて?」と言う声に交じって、「佐渡ではときどきイルカが見えるっちゃ」、「運が良けりゃ、4月から初夏に見えますて」という情報を耳にしました。先の慎重な母は「柏崎では子供の頃よく目にしていたよ」とあくまでも冷静でした。はたしてこの謎の海洋生物は!?

目撃した地は大潟から柏崎にかけての海域、大潟には「人魚伝説」もあり、日本のアンデルセンと言われる旧高田出身の小川未明もこの日本海と人魚伝説を題材に『赤いろうそくと人魚』の作品を残しています。伝説の人魚は海獣の化身ともいわれ、また、柏崎には「鯨波」という地名もありますから、

どうやらこの地域は、イルカ、クジラといった海のほ乳類がらみの地のようです。では、目撃した謎の生物はイルカかクジラか、はたまた人魚か!?クジラとイルカと人魚、違いは何だね?といわれたら写真やイラストではよく判ります。しかし、実際泳いでいる姿は人魚以外遠目では見分けがつかせません。尾びれの形状からはイルカのような気もしますが、「ほんとかね?」と念押しされたら???です。

調べてみると動物の分類ではイルカもクジラ目に属し、昔はイルカもクジラと称していたので海の大きな獣類はみんな「クジラ」であったようです。日本海はクジラもイルカも「クジラの寄り現象」といわれ漂着し、明治の頃は佐渡で捕鯨もされていました。

イルカは春から初夏にかけて繁殖のため日本海を北上してオホーツク海を目指すと言います。ですから、目撃した謎の生物はイルカの可能性があります。大潟の人魚も柏崎の地名のみられるクジラも実は北の海まで旅する「イルカ」であったかもしれません。日本海側では、海獣トドの名称は「アシカ」の方言であったという古い記録もありますから、イルカが土地ことばではクジラであった可能性もあります。思いもかけぬイルカの発見で、日本海はさまざまな風土や文化、そしてことばを伝える航路であることを認識しました。

(なお、クジラとイルカの習性については『日本海のクジラたち』本間義治著を参考にしました)

